

月刊[里親だより]

第53号 2014年3月10日(月) (公財)全国里親会

◆改正・里親信条へのご意見ありがとうございました

「改訂版・里親信条」について地域の里親会などに意見を求めたところ、多くのご意見をいただきました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

なお、いただいたご意見については事務局でとりまとめ、3月17日(月)に開かれる理事会で決定し、新年度から採用する予定です。

◆全国児童福祉主管課長会議、開催

2月26日(水)、厚生労働省で「全国児童福祉主管課長会議」が開催されました。雇用均等・児童家庭局の来年度の取り組みなどが説明されるものです。そのなかから、里親に関する部分を紹介します。

まず、平成25年3月末現在の里親登録数は9392世帯(前年8726)、委託里親数は3487世帯(同3292)、委託児童数は4578人(同4295)です。ファミリーホーム数は184か所(同177)で829人(同671)の児童が委託されています。里親委託率は14.8%となりました。

来年度からの措置費などの改定は、

- ・学習指導費(1人当たり月額) 7920円→8090円
- ・一般生活費(乳児1人月額) 54980円→56440円
(乳児以外1人月額) 47680円→48950円
- ・里親の一時的な休息のための援助経費
1日当たり 5500円→5600円
- ・分娩介助料(1件当たり) 193090円→200090円
- ・教育費: 小学校(児童1人月額) 2110円→2170円
中学校(児童1人月額) 4180円→4300円
特別支援学校高等部(児童1人月額)
4180円→4300円
- 入学時特別加算費(児童1人年額)
59010円→60970円
- 見学旅行費——小学校第6学年(児童1人年額)
20600円→21190円
中学校第3学年(児童1人年額)
55900円→57290円
- 高校第3学年(特別支援学校高等部含む・児童1人年額)
108200円→111290円

入進学支度金——

- 小学校(児童1人年額) 39500円→40600円
- 中学校(児童1人年額) 46100円→47400円
- <特別育成費>
- 国公立分(児童1人月額) 22270円→22910円
- 私立分(児童1人月額) 32970円→33910円
- 入学時特別加算費(児童1人年額)
59010円→60970円
- 資格取得等特別加算費(児童1人年額)
55000円→56570円
- 期末一時扶助費(児童1人年額) 5070円→5210円
- 就職支度費(1件当たり) 79000円→81260円
特別基準(1件当たり) 189510円→194930円
- 大学進学等自立生活支度費(1件当たり)
79000円→81260円
特別基準(1件当たり) 189510円→194930円
- 葬祭費(1件当たり) 153900円→158350円
- 里親手当(児童1人日月額) 72000円→同額
- 専門里親(児童1人日月額) 123000円→同額
- 一時保護委託費(一時保護委託児童1人当たり日額)
2360円→同額

これらについては最寄りの児童相談所にご確認ください。都道府県(市)の加算がある地域もあります。

◆来年度の全国里親大会・ブロック大会の予定

第59回全国大会は、10月18・19日(日)岡山市岡山国際ホテルで開催されます。

ブロック大会については、

- ・北海道ブロック: 9月7日(日)岩見沢市にて
- ・東北ブロック: 7月19日(土)・20日(日)福島県いわき市にて
- ・関東ブロック: 7月6日(日)静岡県沼津市にて
- ・東海・北陸ブロック: 6月7日(土)・8日(日)愛知県蒲郡市にて
- ・近畿ブロック: 7月12日(土)滋賀県大津市にて
- ・中国ブロック: 10月18日(土)・19日(日)岡山市にて
- ・四国ブロック: 9月7日(日)愛媛県松山市にて
- ・九州ブロック: 11月2日(土)・3日(日)沖縄県那覇市にて

◆全国里親委託等推進委員会を開催

2月24日(月)、平成25年度第2回目の「全国里

親委託等推進委員会」が開催されました。『里親支援専門相談員及び里親支援機関の活動、里親サロンに関する調査報告』の内容が了承され、3月下旬には報告書を配布する予定です。

里親会事務局はじめ、都道府県・市、児童相談所、児童養護施設等に配布することとしておりますので、里親サロン等でご活用下さい。

◆『里親だより』第99号を発行

年4回発行している『里親だより』(第99号)を2月15日(土)に発行しました。お手元に届いている頃かと思えます。

◆IFCO大会に参加したユースへのアンケート

全国里親会では、ユースの考えを知るべく、昨年9月に行われたIFCO世界大会に参加した日本人ユースを対象に、アンケート調査を行いました。

実施は2月。64通送り15通の回答を得ました。

① これまでフォスターユースとしてどんな思いで暮らしてきたか、を複数回答で聞いたところ「特別な思いはない」が最も多く7票。次いで「同じ境遇の友人がいればよかった」(5票)、「生活の中でいつも孤独を感じていた」「大人の人たちは私の気持ちを分かってくれないと思っていた」(同数で3票)、「その他」(1票)と続きます。

「その他」としては、“社会的に理解されていないため友人などと話づらいことがあった”とコメントしています。

② 思春期や自立期にどんな困難があったか、を複数回答で聞いたところ、「自分の境遇を受け入れがたかった」「18歳や20歳で自立しようとするのがそもそも無理」が最も多く5票。次いで「身近に自立モデルがいなくて困ることが多かった」(3票)、「困難なことにはなかった」「信頼できる相談相手がいなかった」(同数で2票)、「その他」(1票)と続きます。

「その他」としては“人によっては補助の必要な人もいる”とコメントしています。

③ IFCO大会に参加してどのような変化があったか、を複数回答で聞いたところ、「貴重な友人に出会えた」が最も多く7票。次いで「里親制度に関する考え方が変わった」(6票)、「フォスターユース同士での交流がしたいと思った」(4票)、「フォスターユースとしての権利擁護などなにかの活動をしたくなった」(3

票)、「とくに変化することはない」「その他」(同数で2票)と続きます。

「その他」としては“本音で話し合える時間がなかったのが残念。世界の里親の実情を聞くことができればよかった”“いままでぼんやりとしか見えていなかった里親制度の中身や、当事者である子ども、友人との交流ができ、お互いのやり場のない気持ちを分けあうことができ、自分のなかでも少し心の整理ができた”とコメントしています。

④ IFCO世界大会を契機として当事者の活動を活発にするために、里親会として何かできることはあるか、複数回答で聞いたところ、「社会的自立にむけてさまざまな支援活動をしてほしい」が最も多く9票。次いで「社会的養護の子どもたちの権利擁護の活動をしてほしい」(4票)、「その他」(3票)、「特に期待することはない」(2票)、「ユースの取りまとめをしてくれるリーダーの養成をしてほしい」(1票)と続きます。

「その他」としては“実子へのサポートや勉強会。実子が子どもであっても里親制度や里子について知るべきだし、実子としての苦しさもある”とコメントしています。

⑤ フォスターユースとして今後どのような活動をしていきたいか、またどんな活動ができるか、複数回答で聞いたところ、「社会に向けて発言をしていきたい」が最も多く10票。次いで「ユースの団体をきちんとしたい」(6票)、「特に活動していきたいことはない」(2票)、「その他」(1票)と続きます。

「その他」としては“大人の里親会があるのだから子どもの会があってもいいと思う。里子であることがレッテルでなしに、自信に繋がるような活動を企画したいし、参加したい”“国内でもフォスターユースの活動が活発になってほしい”とコメントしています。

◆全国里親会へ年会費の納入について(お願い)

平成25年度の会費が未納になっている里親会があります。できれば、年度内に納入いただきますようお願いいたします。

平成25年3月末現在の里親数は前年同日と比較すると登録数は666人、委託里親数は195人増えております。会員数は、昨年度に比べ減少している里親会もあります。どうか、里親制度を推進するためにも、一人でも多くの里親が会員になり、活発な里親会活動が行われるようご協力願います。